

研究授業 1年 サイエンスコミュニケーション科

令和2年11月11日(水)
1年1組 金澤主任教諭 5校時 4/7
1年2組 吉岡教諭 4校時 2/7

「くちばしはかせになろう」



鳥になりきって、どのくちばしをどのように
つかっているのかを考えよう 4/7時間

「くちばし」にでてきたキツツキ・オウム・
ハチドリになりきってえさをとってみよう 2/7時間

フラミンゴみたいに
たくさんすくえるね

どろのなかのものが
はさめるね

オウムみたいに
かたいきのみも
われるかな

2/7時間



キツツキ
みたいに
できるかな



ちいさな
いきものを
たくさん
とれるのは
どれかな



自然事象との対話

児童相互の対話



ハチドリみたいに
するのほんとうに
「フシッター」だね

くちばしのかたちとえさは
かんけいがあるとおもいます。

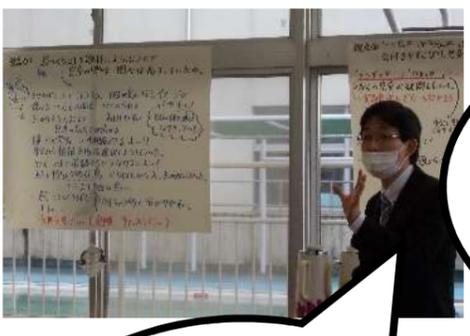
キッチンばさみみたいに
にくをかみきれるのは
ワシだって「ワカッター」

オウムのくちばしでは
あなをあけられないね

それぞれのくちばしにあつた
たべものをたべていると
おもいます。



学級全体での対話



不思議に思ったことや分かっ
たことを「フシッター」・
「ワカッター」とし、活用す
ることで児童のコミュニケー
ションが活発になった。



研究協議会

講師:文部科学省初等中等教育局
教育課程課 教科調査官
鳴川 哲也 先生

鳥のくちばしを題材に選ぶ
ことで児童の興味・関心が
高まっていた。特徴のある
くちばしをもつ鳥から身近
な鳥へ広げていきたい。

くちばしで餌をとる動作
化や道具を使った疑似体
験は有効であった。

